

平成31年2月8日

鹿児島大学大学院人文社会科学部研究科長 殿

学位 (博士) 論文審査の概要及び結果報告書

地域政策科学専攻 氏名 龔 卿民

学位論文題目

中国民族観光と民族文化の創出—湖北省土家族の事例を中心に—

(Ethnic tourism and the creation of ethnic culture in China: With a focus on the case of Tujia people of Hubei Province)

論文審査の概要

1. 本論文の目的

本研究の目的は、第一に、中国の民族観光において、少数民族文化がどのようにして創出され観光資源化されていったのか、その歴史的背景について詳述すること、第二に、湖北省の民族観光において、恩施土家族の「伝統文化」がどのようにして発掘・選択され、観光資源化され、伝承されてきたのかを、地域エリートの視点から明らかにすること、第三に、民族観光が湖北省の土家族の人々に投げかける今日的意味について考察することにある。

2. 本論文の構成

本論は1章序論と8章結論の他に6章からなる。第1章では、研究目的が、まず、1980年代以降から現在に至る中国民族観光の歴史的経緯と現状について詳述すること、次に、湖北省恩施州土家族のある特定地域の「女兒会」と呼ばれる文化要素が観光化により民族文化として創出されたことを調査資料により明らかにすること、さらに、この民族文化の創出が土家族の人々に投げかける意味について考察することにあることが示される。また、先行研究における本研究の位置づけとして、本研究がこれまでの日中の民族観光研究の欠落部分を補うものであることを指摘する。

第2章と第3章では、マクロな視点から中国全体の少数民族観光の現状について概観する。2章では「改革開放」以降の1995年から始まる民族観光の具体的展開について記述し、観光業が少数民族地域の経済発展の手段として注目され、少数民族の伝統文化が行政や観光関連企業などにより取捨選択され観光化されてきたことを指摘し、3章では民族文化の表象の諸形態について、民族テーマパークや民族観光村など6つの類型に分けて整理し詳述する。

第4章では、湖北省の土家族とその民族観光について概観し、土家族誕生の経緯につい

て整理した後、湖北省政府の民族観光政策の特徴が恩施地域の土家族文化を中心とした民族テーマパークであり、政府主導であること、「漢族」との文化的違いが意識され、土家族の民族意識の強化にも貢献していることを明らかにする。

第5章では、恩施州恩施市の代表的な民族観光文化である「女兒会」に焦点を当て、その誕生と観光化の過程について詳述し、その観光資源化に重要な役割を果たした地域エリートとの関与について考察する。「女兒会」は恩施市のある特定の地域でのみ行われていた歌垣的な恋愛習俗であったのが、1950年代に民族幹部により発見され、90年代に観光イベントに発展し、2000年代には民族文化传承人や企業家など様々な地域エリートがその観光開発に関与してきたことを指摘する。

第6章では、湖北省土家族の民族文化の伝承の問題を行政や学校教育、地域社会の取り組みから分析する。まず、中央政府や湖北省政府の政策によって創出された土家族の「民族観光文化」の保護政策について見た後、恩施市の民族小中学校や地域の様々な伝承組織による保存・伝承活動の現状について詳述し、「女兒会」などの民族観光文化が土家族の代表的な文化として民族学校や地域社会で伝承されて定着しつつあることを指摘する。

第7章の考察では、第一に、土家族の民族観光が民族テーマパークを中心にして政府主導で展開され、民族観光イベントの「女兒会」が「恩施土家族の伝統文化」として広く紹介されていったが、これは、政府や多様な分野の地域エリートによる新たな土家族の「伝統文化の創出」であること、第二に、中央政府から湖北省地域政府に至るまで数多くの文化保護政策が制定・実施され、学校教育の現場においては、恩施地域の民族学校を中心に、「女兒会」などの観光文化が土家族の代表的な「伝統文化」として紹介され、次世代に伝承されていること、第三に、恩施土家族の「女兒会」の事例は、民族文化の「発見」→「創出」→「伝承」→「固定化」に至る一連の過程として見るができること、最後に、民族観光が土家族の人々に投げかける今日的意味として、民族観光により、土家族の伝統文化やアイデンティティや根拠が従来の土家語や歴史的文献資料から観光により新たに創出された「民族観光文化」へと変わってきたことを指摘する。

第8章では、以上の議論を総括し、本論文の意義と課題を示す。

3. 本論文の評価

1) 評価すべき点

第一に、本論は男女の歌の掛け合いを内容とする「女兒会」を観光資源化するとともに、これを「土家族の伝統文化」として創出、普及、伝承してきた湖北省恩施州の取り組みを扱った力作である。湖北省恩施州において、他の土家族地域では見られない「女兒会」の発掘から、これを「土家族の伝統文化」として創出し、学校教育や社会においても普及、伝承させる取り組みや関係する地域エリートを丹念に追いかけるとともに、土家族の民族観光に関係する重慶市、湖南省、貴州省のほか、雲南省昆明にある観光施設についても精力的に調査し、中国における民族観光を総合的に捉えようとする意欲作であり、その調査資料も質、量ともに優れたものとなっている。第二に、日本における中国の民族観光研究の特徴は人類学的視点に立った文化論的なものが多く、主に雲南や貴州などの西南中国の事例を対象にしたものが多いのに対し、中国においては、民族観光の後発組であった内陸部の事例を扱った研究が数多くみられるものの、観光開発を促進するための政策や方策に

関するものが多く、また、申請者の調査地である恩施土家族については、文化伝承に関する研究は多いが、民族観光と関連づけたものはないため、本論はそうした日中両国の先行研究の「欠落部分」を補うものであるという点でも高く評価される。

2) 問題点

まず、「女兒会」という観光文化が恩施土家族の人々によって自分たちの「真の」民族文化として認識されているのか、また、土家族のアイデンティティ形成に影響しているのかについては、根拠となる現場の声やデータが十分とは言えないことや、「女兒会」が学校教育の中で実際にどのように教えられているのかについて具体的資料が提示されていないこと、土家族の文化が観光文化化される際に選択されなかった文化要素に対する視点が欠けているため選択基準が明確でないこと、さらに、学校での民族文化の教育の背景として他の少数民族との競合といった視点が欠けていることなどの問題が指摘された。

4. 総合評価

本論文は、以上のようないくつかの課題が存在するが、漢化の著しい地域における民族観光に焦点を当てた特色ある研究であるとともに、20世紀80年代以降の中国の民族観光の流れを俯瞰することのできる内容となっている点は高く評価でき、よって、博士（学術）の学位授与に値する研究であると評価できる。

授与する博士学位 学術

論文審査結果 合

審査委員

主査 (氏名) 黎原秀敏

副査 (氏名) 萩野誠

副査 (氏名) 渡辺若郎

副査 (氏名) 曾士才

副査 (氏名) 兼城糸絵